

# 否定派ディベート立論

## 第一立論 4分

### ①古典語を言語として使うことはない

まず、古典は現代との接続が薄いので、わたしたちにとって役に立つとは言い難いでしょう。

研究者、教員など文学を専門にする方々を除いたとして、その残りの大多数であるわたしたちは日常生活で古典語そのものを使う、といったことはあるのでしょうか。

たとえば、駅のホームの表示も、教科書を読む言語、友達に送るラインだって、どれも現代語です。古典はどうあがいても昔の言語であり、言語が変化していくものである限りわたしたちに必要なのは、今、ここにあるこの現代の言語です。高校生を対象にしたアンケートでも「覚えることが多い」や「将来役に立たない」という意見が多数ありました。

言語としての古典の必要性は、ほとんど感じません。古文や漢文が読めたとして、役に立つ、役立たせることができるのは専門家の方々のみです。果たして古典が現代の私たちにとって役立つものと言えるのか。そこに大きな疑問符を打たざるを得ません。

### ②古典文学は現代語訳でも読める

言語として必要ないのであれば、古典を学ぶ目的はなんでしょう？まずは、昔の文学を読むためですね。古典を学べば先人の知恵があふれる文学作品を無限大に読めるようになります。確かにその通りです。しかしそれは、わざわざ原文で読まなくても、現代語訳で十分なのだと思いますか。

現代語訳だと細かいニュアンスが伝わらないと仰る方は多くいらっしゃいますが、たとえばノーベル文学賞をとる作品を考えると、すべて英訳されて審査されていますよね。わざわざ原文の言語を学び、原文で読まなくても、その内容の素晴らしさは翻訳版で十分伝わると言える証拠です。

もしそれでも昔の文学を原文で読みたいというのなら、それはもはや趣味の範囲になり、高校の授業で全員が学ぶほどのことではないです。

文学を読むにあたって、古典を学ぶ必要はまったくありません。

### ③古典には、高校教育に不適切な内容が含まれている

言語として古典を学ぶ意義、文学として古典を原文で学ぶ意義がないのなら、残るのは社会的役割としての古典です。様々な思想や戦略が含まれる古典は社会において役立つかもしれない。しかし、同時に社会に危険性を及ぼす可能性もぬぐいきれません。

例えば、古典の中には男尊女卑や、身分制社会の肯定、地域的な差別の助長のように、思想の偏りを植え付ける可能性のある表現が含まれているものがあります。

伊勢物語第十五段にみられる「夷心」を持つ女の話や、古今集仮名序にみられる「夷歌」は心が伝わりにくい者として、また、コミュニケーションがとりづらい者として夷（えびす）を比喩的に使う事で、まさに当時の東国・地方差別を象徴していると言えます。これはひとつの例ですが、他にも頻繁にこういった内容が見られます。このような差別的な表現を含む古典を高校教育に組み込むことは好ましくありません。

#### ④ナショナリズムの助長

さらに、ナショナリズムの助長として使われる可能性もあります。突然ですが、桜と聞いて思い浮かぶ歌は何でしょうか。本居宣長の詠んだ歌、「敷島のやまところを人間はば朝日に匂ふ山桜ばな」というものが有名ですが、それが政府によって悪用された例があります。時は遡って第二次世界大戦、アジア太平洋戦争中。戦争に協力的な国民を育成するために桜を国の教育に取り入れていたり、末期に誕生した特攻隊の部隊の名がそれぞれ「敷島隊」、「大和隊」、「朝日隊」、「山桜隊」と命名されることもありました。先ほどの宣長の歌から引用されたのです。

このようにして古典は国家的な権力によって教育や流行に取り入れられ、ナショナリズムの高揚に使用される危険性があるのです。

---

## 第二立論 4分

#### ⑤古典語による現代日本語能力の向上は効率が悪い

古典語を知ることが、肯定派が言うように、現代日本語の能力の向上にはなるかもしれませんが、圧倒的に効率が悪いです。考えてみてください。皆さんが現代語の能力を向上させようと思っているとします。その時に、わざわざ古典からその文法を学ぶことはあるでしょうか。現代語を向上させたいのなら、現代語の文法を学びます。その方が確実で、かつ速いのは当然のことです。それこそ、わたしたちだって、英語の文法を学ぶときにわざわざクラシック英語から学んだりしませんよね。

#### ⑥古典で論理は学べない

また、肯定派は古典を論拠によって客観的に読み解くことで論理を学べると言いますが、そこには疑問を持ちます。なぜなら、古典の論理、すなわち与えられた前提から結果を導き出す推論の過程は、常に同じ型にはめるだけのプロセスだからです。文法や単語の意味は、多少例外があれど常に法則は同じです。現代語訳という結果を導く過程は、推論というよりは、定論の方が近いでしょう。加えて、数学のように多くの公式が存在するわけでもなく、作れる問題は限られています。極めて応用性、発展性が低いのも難点です。だからこそ、アンケート結果でも「理系」の方が古典を「簡単」だととらえていたのです。

### ⑦貴重な時間はもっと実用的なものに

さらに、古典の授業では先人の知恵を学べるかもしれませんが、それ以上に現代の高校生に必要なのは、実社会で役に立つスキルです。企画書の書き方や議論の方法は、職業分野を問わず通用する普遍的なものです。高校生の限られた時間の中では、そうした実用的なものをより重視するべきです。

### ⑧情理は現代語訳でも可

それに、古典から情理を尽くす心や他者を受け入れる姿勢を学ぶというなら、現代語訳で良いはずですが。情理の心や受け入れの姿勢は、古文の文字自体に含まれてるのではなくて、そのストーリーすなわち内容に含まれています。繰り返しになりますが、原文で読む必要がないのです。すなわち私たちが定義する、原文を読むという授業も必要がないということです。

### ⑨規定された自国の範囲で自国の文化は学べない

最後に、肯定派は古典の授業を通じて自国の文化を知ると言いますが、そもそも現在「古典」とされている作品から除外され、周縁化されているものが数多くあるのをご存知でしょうか。私たちが普段使っている教科書を開いてみましょう。調べたところ、数研出版の場合実にページの約6割が平安時代、2割が鎌倉時代、残り3割がその他の文学でした。このような平安文学への偏りを見ても、「古典」とされる作品から除かれたものが多いことが見てとれます。アイヌや琉球などの作品がその代表例です。私たちはすでに、教育の段階で「自国」の範囲を規定されているのです。限られた自国の中で、本当に自国の文化を知れるのでしょうか。